

刊夕日六廿月八

常警每日新聞

定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
廣告料 五號十二字 第一行 五拾圓
日曜 祭日の日 休刊
發行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社



白痴の娘

南詩華人

(2)

昨日のことであつた。皆が夕飯をすませる頃を待つ様にして歸る筈のお光は何故か子供達が寝静まつてもまだ歸らなかつた。

お米は何べんとなく門口に立つて薄闇の露路をすかさやうにした。露路にうすい霧が流れてお光らしい姿はなかつた。

「ド〜」と雨戸の開く音がしてひよつこり歸つて来たお光の面は、蠟のやうに蒼ざめて髪は半ば亂れてゐた心配し乍ら子供の着物を纏つてゐたお米は、十燭の灯りの下から傍に黙つて憶病な顔をして立つてゐる。

お光をぢつと見上げた、お光の顔が次第に泣き出しさうな顔に變つていつた。

「お光、今迄何してゐたんだ、ばか、子供の乳は何うするんだ、早くをろさないか」

お光は無言のまゝ、背の子を母に渡し乍らその顔をぢつと見つめてゐたが、ふところから五圓紙幣を恐る恐る差出した。手が無意識にふるへてゐた。

「お光、その金何うした

んだ」

お米の顔が不安相に一層引つた。

「おつ母あよその男に公園で貰つたよ、何か買へつたよ、おいら悪い事したのぢやないよ」

「お光……」

お米の怒つた眼が蛇のやうな鋭さで、お光の體を

組板に生臭味のついたとき

「おつ母あはばか、おいら悪い事したんぢやないよ、只貰つただけだあ、貰つただけだよ」

お光は顔を歪め乍ら一生懸命だつた。

「……」お米はいつの間にか眸に涙を浮べて深くうなだれてしまつた。

……金……金……年頃のお光、お光の白痴であること

そしてお光は花片のやうな顔に、よくぼを漉へ乍らにいつと微笑みかけた。

お光は只母のやさしさと餅や菓子等が欲しいのだつた。

さうした事はお光にとつては忘れられないもの、一つに違ひなかつた。そして今日お光は鈍い頭の中に昨日から今日への出来事を繰返し、想ひ出し乍ら夕闇の迫つた公園で子守唄を歌つた。

お光の長い睫毛の黒い眸は始終何物かを探し求めてゐた、もどかしいやうに同じ處を何遍もぐるぐる廻つたりした。

ガチャ〜とその時お光の近くでサーベルの音がして巡査の姿がお光の眸に映つた。

……明日の献立……

【朝】薄く汁〜たうがんとおろし生姜

【晝】かきあげ〜芝えびみつば 笹うちごぼろ 薬味 下し大根 しその葉

【晩】ごま酢〜芋ずみきごま酢あへ

人の理奔走の要する日成亥と辰己は凶【三碧】我望事や金談は吉なしと猛進する時は今日の吉明日凶となる

【四緑】病氣怪紛失盗難に注意して現狀維持が吉【五黄】離別や死別の患さを聞く凶日なれば水火の難にも注意すべし【六白】我業務には別異なくも公事に心配の起る事あれば水火の難にも注意すべし【七赤】諸事改革革命の件は進んで吉唯だ目下の者の怪俄に注意【八白】金談縁談及目下の者に喜悅あり東西は凶【九紫】目に見て手に入らぬ金談あり又金錢の條目上と衝突を起す事あれば謙遜以て吉

地相 高野 前島 易断 所象

八月二十八日丙寅友引危【一白】萬事滯滞々々しからざれば病氣争論に注意して退き守るに吉【二黒】親戚知

正木織物店ノ生命也

絹織物、正木織物店へ

二割引にて大々的勉強御註文に應ず

御註文ノ時ハ（呼出六七四番）へ店員伺ヒマス

平町字新町貳貳番（公園下）

佛具の御用は……

まづ 榎屋へ!!!

御佛壇 御位牌 佛具類 奉仕 段大特賣

◎御位牌の戒名もお書き致します

平町二丁目 榎屋家具店

内科、小兒科、花柳病科

藤沼醫院

入院需應

故喜代三儀 本年新盆に相當候得共時節柄提灯其他供物等一切御辭退申上候に付豫め得貴意度候也

平町研町十三番地

佐々木喜平

故正男 儀新盆に相當り候得共時節柄提灯供物其他一切勝手ながら御辭退申上候

平町材木町十七番地

あらはまや 藤田儀三郎

敬具

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

副院長 新潟醫學士 赤羽 清

藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五二三番

内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

東京モリス會社トハ全然別會社デ關係有リマセン

誤解ノ無イ様願ヒマス。

帝都證券株式會社平支部

平町白銀町松崎ビル内

時代ハ有價證券デス

手輕ナ理想的六分五厘配當當社ノ御利用ヲ乞フ。

簡單ニ金融モ致シマス。

各地出張所代理店募集。

高級社員招聘

東京モリス會社トハ全然別會社デ關係有リマセン

誤解ノ無イ様願ヒマス。

帝都證券株式會社平支部

平町白銀町松崎ビル内

時代ハ有價證券デス

手輕ナ理想的六分五厘配當當社ノ御利用ヲ乞フ。

初秋繭の取引

四倉市場昨日より開場

郡下養蠶家の期待して居た初秋繭は昨日の四倉繭市場の開場に依つて取引のトップを切つたが相場は四十一圓九十錢と云ふ昨年以上の高値を見て養蠶家を喜ばしたが、同市場初日の取引額は白繭三百三十五貫、最高四十一圓九十錢、最低三十五圓九十錢、馴三十六圓九十錢、三十六掛の好成績で前年初秋繭に比較すると七割方高値を呼んで居ると

水産試験場

二倍に擴張

工費二萬圓で

明年新築さる

石城郡小名濱試験場の應舎は最近腐朽甚しく殊に業務擴張と共に場内も狹隘を感ずるに至つたので豫てより地元民が新築寄附の募集集中であつたが此程地元小名濱

満鮮から一筆

(二)

釜山公會堂にて伊東

商取市土地の者はそう稱して居る盗品市だ、かつ拂いは否道具屋の一介だ、そこには古着金物道具何れでもおそろく盗まれたものはこゝへ來れば何でもあると云ふ位だ、針のまがつたもの迄

既報明日午前八時より警中講堂に於いて開催される石城聯合在郷軍人分會武術大會準備の爲め本日午前九時より警中會議室に於いて役員會を開き打合せをなした

武術大會

役員が打合せ

既報明日午前八時より警中講堂に於いて開催される石城聯合在郷軍人分會武術大會準備の爲め本日午前九時より警中會議室に於いて役員會を開き打合せをなした

勉學の秋を迎へて

愈よ二學期が始る

佑賢や平陽は昨日から

楽しい夏休みも愈々後四五日でおさらばである久しく校門を去つて家庭の人となつた學生さんも暖い親の下で或は海に或は山に三伏の暑熱を逃れて英氣を十二分に養つて訪れた讀書の秋、勉學の秋を迎へて生々とした姿で精進する町内各中等學校及び各小學校の第二學期は磐城佑賢學舎、平陽女學校昨日行はれた始業式を皮切りにやがて各學校共す

英氣十二分

がくしい秋の冷氣の中で學生さん達の勉強が始まる因に各學校の始業式は左の如くである

私立校の經營難

授業料の滞納を嚴重に督促すれば退學者續出

平町に於ける男女各私立中等學校は今春の新學期に辛ふじて入學者を狩り出し授業を開始しただけに授業料

濱三郡木炭組合

存廢最後の評定

濱三郡木炭同業組合の解散か存續かに就いての回答書は既記の如く豫定數に達せず何れとも決し難く行詰りを來したので來る廿七日午後一時より團體事務所評議員會を開き存廢何れにすべきかに就いての最後の協議を開く事になつた

又もや大勝して

準決勝戦に臨む

北日本庭球戦に於ける

昨日引續き仙臺東北學院中學部コートに於て舉行された北日本中等學校庭球選手權大會に出場した磐中の川隅小川組、平商の安島木田組は又もや左の戦績に依り

大勝磐中組は本日は行はれた準決勝に平商組は準決勝に各出場した

中(川隅) 4-2 福(松草) 中(服部) 4-0 福(伊藤) 平(安島) 4-0 福(北原) 商(木田) 4-0 福(北原)

故福太郎儀 本年新盆に相當り候得共時節柄提其他供物一切乍勝手固く御辭退申上候 敬具 和和八年八月 平町三丁目 高木や本店 高木 良

故吉田禮次郎儀 新盆に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固御辭退申上候間不惡御了承願上候 敬具 昭和八年八月 平白銀町 吉田新聞店

故末吉儀新盆に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固く御辭退申上候 敬具 昭和八年八月 五丁目 金光堂時計店 布施テヨ子

拜敬金蓮院 今年新盆に相當り候處甚だ乍勝手佛前へ御寄贈等は時節柄御遠慮申上候間不惡御諒承被下度此段御通知申上候 敬具 昭和八年舊七月 二丁目 田卷造酒之助

そしてこんな所割に家はきたない、マア炭坑の長屋のきたなさを思はせる人がウヨウヨ居る、屋内に腰かけがあつて皆腰掛けて、入口は三尺位で天井もひくい、みなうすくらしい所で陰氣な顔をして居る、こんな所何程かの金を出して樂しめるのが支那の興行だ、支那芝居之も變つて居る、見ても解らない歌劇だ新派も大入だ

小屋はやつぱりきたない、支那の輕業も見た、七八人の同勢で小屋の中央に二本の柱を立て撞木を垂つて廻りに古幕を張り、天井なしでやつて居る、幼稚なものだ、それで

一日何回 かやつて居る、少し廣場へ行くと木綿のセリ賣をやつて居る、立つて聞いて居ると其真剣な熱心さで聲張上げ何かにかか云つて居る、見ればこめか

前二〇、〇〇 宗教講演 前一〇、〇〇 講演「衣食」 前二〇、〇〇 講演「衣食」 前二〇、〇〇 講演「衣食」

勝利の日本出場権を獲得した

(本日午後四時半着電)平商庭球部は本日北日本中等學校庭球大會決勝戦に於いて優

十八圓、拂下げは三萬二千四百三十三圓、結局拂ひ出

今晚も明日も南西の風情曇半し驟雨

前二〇、〇〇 宗教講演 前一〇、〇〇 講演「衣食」 前二〇、〇〇 講演「衣食」 前二〇、〇〇 講演「衣食」

(本日午後四時半着電)平商庭球部は本日北日本中等學校庭球大會決勝戦に於いて優勝しオール日本出場権を獲得した

昨今の海水浴場

メツキリ淋しく

地元の河童連の獨舞臺

賣店は欠損なし

石城郡小名濱、四倉等の海水浴場は近年にない暑さ續きに連日非常な賑ひを見せ居たが立秋以來朝夕の涼氣著しく流石の避暑客も續々引揚げて了ひ海岸は地元

夜通し學校は明晩

鬼氣身に迫る試膽會

既報平第三小學校に於ける夜通し學校及び試膽會は愈々明晩行はれるが先づ午後九時より講堂に於いて童話會レコードコンサート靜座

司令部の大失態

金成氏に御召状延着

光榮ある機會を逸す

石城郡錦村貴族院議員金成通氏は今回第二師團長東久通宮殿下福島御成りに際し賜饗の御召あつたに拘らず取扱者たる福島聯隊區司令部が御召狀金成氏の住所錦村を鹿島村と誤記して發送

窓口に響いた舊盆

平局の拂出しが増加

接近した舊盆が窓口にどう響いたかを平郵便局に尋ねてみると十五日以降昨日迄の貯金額は二萬六千四百八

十八圓、拂下は三萬二千四百三十三圓、結局拂ひ出しが五千九百四十五圓の増加を示してゐると

刑務所を

出て間もなく

また盗む

栃木縣芳賀郡眞岡町宇西郷生れ當時住所不定興一三男以澤榮三郎(四)は昨廿四日午後五時頃石城郡湯本町表町雜貨商鈴木政次方の店頭よりカケツト一圓餘を容器的に盗まざらつて逃げ出した處を附近の者が取押へ平署に突き出したが同人は去月五日宮城刑務所を出た

決闘殺人の事件

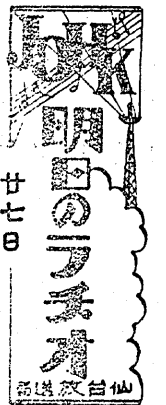
原審通りの求刑

過般平支部に於いて中島裁判長より懲役六年を言渡され不服にて控訴した又葉郡廣野村大字上津見川農根本末吉(三)に對する決闘殺人傷害致死事件の公判は昨日午前十時半より宮城控訴院に於いて大和田裁判長係り

酌婦三名

裸体で客引き

平町四丁目五〇飲食店熊谷ナツコ方抱へ酌婦押山ウメ(三)増田チヨ(三)阿部タカノ(三)の三名は去る廿三日午後十時半頃暑さの爲めと云へながら腰巻一本の醜い裸体姿で往來に立ち素見客に秋波を送つて居た處を



今晩の部
ス 氣象通報 番組豫告
生蘭相場
明日の部
前九、一〇 榮養料理献立
「身欠練と牛蒡の煮付」主料理「大和芋胡瓜の酢の物」副料理 榮養研究所
前九、三〇 (子供の時間)
「故幾山檢校曲」 廣岡福子 鳴原松園
後九、三〇 時報 ニュー

前二〇、〇〇 宗教講演
前二〇、四〇 講演「衣食住の資源」大阪市立工業試験所長理學博士 高岡齋
後二〇、五〇 滿洲より各局の午後
後一、四〇 但謠「ハンヤ節」江ノ上マサト「馬寄米つき唄」上田與助外
後一、五〇 新民謠
後二、〇〇 但謠「草取唄」新田地突音頭、「渡邊力馬」山崎丑太郎
後二、二〇 民謠「岡山民謠」岡山民謠研究会
後二、四〇 但謠「蘆原節」唄清香其の他
後三、〇〇 世界民謠しらべ(第四回) フランス獨唱佐藤美子 日本放送交響樂團指揮ニコフイシフエルブラット
後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇「働け働け」B.R.コドモサークル
後六、二五 趣味講演「夏期登山の對稱としての飯豐連峯」飯沼潔水
後七、三〇 等曲
後七、五〇 唄「秋の色」唄吉住小桃次外
後八、一〇 清元「御名殘押繪交張鳥羽繪」清元梅壽太夫外
後八、三〇 新内「かくし新座敷」富士松加賀見太夫外
後九、〇〇 常磐津 常磐津松尾太夫外

今晩の部
ス 氣象通報 番組豫告
生蘭相場
明日の部
前九、一〇 榮養料理献立
「身欠練と牛蒡の煮付」主料理「大和芋胡瓜の酢の物」副料理 榮養研究所
前九、三〇 (子供の時間)
「故幾山檢校曲」 廣岡福子 鳴原松園
後九、三〇 時報 ニュー

前二〇、〇〇 宗教講演
前二〇、四〇 講演「衣食住の資源」大阪市立工業試験所長理學博士 高岡齋
後二〇、五〇 滿洲より各局の午後
後一、四〇 但謠「ハンヤ節」江ノ上マサト「馬寄米つき唄」上田與助外
後一、五〇 新民謠
後二、〇〇 但謠「草取唄」新田地突音頭、「渡邊力馬」山崎丑太郎
後二、二〇 民謠「岡山民謠」岡山民謠研究会
後二、四〇 但謠「蘆原節」唄清香其の他
後三、〇〇 世界民謠しらべ(第四回) フランス獨唱佐藤美子 日本放送交響樂團指揮ニコフイシフエルブラット
後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇「働け働け」B.R.コドモサークル
後六、二五 趣味講演「夏期登山の對稱としての飯豐連峯」飯沼潔水
後七、三〇 等曲
後七、五〇 唄「秋の色」唄吉住小桃次外
後八、一〇 清元「御名殘押繪交張鳥羽繪」清元梅壽太夫外
後八、三〇 新内「かくし新座敷」富士松加賀見太夫外
後九、〇〇 常磐津 常磐津松尾太夫外

生花の老師匠が
旅先の宿で急死
が番外として地元小學校児童の競泳もあり來賓として後藤仙臺礦山監督局長及び諸井同礦政課長等も臨席觀覽

坑夫柏芳之助(三)は昨廿五日午後一時第五坑内で作業中支柱が折れて下敷となり重傷を負ひ炭礦病院で應急手当を加へたが間もなく絶命した

鹿島青年修養 石城郡鹿島村青年團では近く修養部を設け團員の精神修養を圖る由

山家君が登壇 平商業學校では明日午前八時より茨城縣關本第一小學校に於て開催される多賀郡下學生青年團員の雄辯大會に五年山家正君を出場せしむるが演題は光を浴びてである

迷惑至極の拾ひ物 食糧だけでも容易でない

鹿島青年修養 石城郡鹿島村青年團では近く修養部を設け團員の精神修養を圖る由

山家君が登壇 平商業學校では明日午前八時より茨城縣關本第一小學校に於て開催される多賀郡下學生青年團員の雄辯大會に五年山家正君を出場せしむるが演題は光を浴びてである

三大炭鑛水泳競技 明日磐炭高坂プールに

鑛監局長も臨席 七日午後零時半より磐炭高坂プールに於いて行はれる

ラヂオ体操 引續き無欠席賞與 行はれる

支柱折れ 坑夫下敷 間もなく絶命

鑛監局長も臨席 七日午後零時半より磐炭高坂プールに於いて行はれる

ラヂオ体操 引續き無欠席賞與 行はれる

支柱折れ 坑夫下敷 間もなく絶命

鑛監局長も臨席 七日午後零時半より磐炭高坂プールに於いて行はれる

ラヂオ体操 引續き無欠席賞與 行はれる

御愛乗下さい シボレーに！ そは先驅者なり



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第二十六回 血に飢ゆる村正

發心して髪を切る

村『それほど御親切に思ふて下さらば、何故私の宅へお出であつて一言なりといつて下さらぬぞ、餘りといへばお情ない、折れる物を鍛へた覚えは更にございません是が折れるとは如何なる譯か、諸國の一の宮を參拜し此處彼處の名刀鍛冶の手許へ行き、湯加減の秘密も覚え、工風を凝らし、當國へ參つて三年餘り、愈々此の年も経つたことならば久し振にて鎌倉へお尋ね申して御機嫌を伺ひ、且つは殺氣の抜けしか抜けざるか一振打つたる刀の御鑑定を願ふ事にしたと思ふの際に、何の科あつて昨夜私が鍛へました刀に非をお打ちなされしか、其の次第を承まはりたる存じます』

と涙と共に述べたる時五郎入道正宗は、暫らく村正の顔を見詰めて居りました。がハラ／＼涙を流し、正『然らばいふて聞かせる會はざるこそ會ふに勝りしならぬと存じて故と其方に會はずに宿の主人に申したること悪かれと思ふていふたのではないなれども其、昨夜打つたる一刀は、確に

正『是見られよ、斯の如き有様なれば是にて疑ひ晴らされよ』
といつて居る内に不思議や今切れた其の切口より、バツと煙の如きものが立ち上りました、餘りの事に驚いた村正がツムと後へ倒れたるを見て正兼正義の兩人夫へ來たつて、介抱致します、處へ女房の春江、伴正俊の手を引いて、良人の安否を氣遣ひまして、佐兵衛諸共其の處へ馳せ來つて見ると右様の事、正宗は春江の顔を見るより



聲諸共に正宗が己の一刀を村正の刀に當てたかと思ふと、ゴロリ夫へ切れたるは瓜を切るより容易く

正『オ、其方は堀川の國廣の妹春江ではないか』
春『さういふ所は鎌倉の伯父様でございますか』

正『イヤ久しく見ない中に大層立派なものになつて……ナニ之が村正の伴か、惣領ゆゑに太郎正俊と申すか、如何に村正能く聞かれよ、是なる春江は私の娘のたかねと共に同じ乳にて育つたことゆゑ乳姉妹、されば其の方は正宗の子も同じ事今此處で師弟の再會いたすと云ふは、此の上もなき事であるが、然し其方の殺氣未だ抜けず、今より三十七二十一日の間に、三振の刀を相續して打上げ、鑑定いたした其の上にて、それにて尙殺氣の抜けぬことなれば、思ひ詰めて伴を仕込んで、業を譲り、其方は刀を鍛つ事を止めなさい』
之を聞いて村正非嘆の涙に暮れ

村『實に恐れ入りました、何は兎もあれ、見苦しくもどうか手前の家へお越しを願ひたう存じます』
茲で妙見山へ參詣致しまして正宗は二人の弟子を連れて麓へ下り、村正の宅へ來て足を止めました、精進潔齋して其の日より向ふ二十一日の間に、正宗が元槌を勤め、まして三振の刀を鍛へました、茲で研を上げ鞘に納め、やがて正宗は正面に着座なして心を落着け村正並に兩人の弟子を左右に置いて鑑定を致しました、見れば見るほど物凄く

正『之見られよ村正、妙見山の頂上に此の正宗が切つたる刀の如く、矢張り殺氣少しも抜けず、刃形に焦つたところのみ多く、どうも性質抜けざる事であるから我が婿彦四郎貞宗に申し付けて其方の伴正俊を仕込み其方の後を繼がせし適れ物の役に立つ刀を鍛へ上げるやう、計らうふて取らすから、其方はどうか今日限り刀を鍛つことを止めて貰ひ度い』
といふ正宗の言葉、聞いた村正、今は是非なく、鞘を拂つた一振の短刀、ブツリ、己の黒髪を切落し、村『之れにて世の中の罪滅ぼしをいたしたり、されば其の印に勘當御許し下さるべく……』
正『オ、其の事は如何にも承知いたしたるものでは手紙を認めるから、此の手紙を持つて鎌倉へ參り、貞宗に伴の儀を相頼むが宜い、其方は他の職を學ぶとも、是は少しもかまはぬが、髪の毛を剃りし處を見れば後生の菩提を弔ふ心か……』
村『如何にも仰せの如くにございませう』

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

提
愈々舊盆も近づきました御新佛の戒名入提灯を御注文下さい

角形	經形	瓜形
經六、〇センチメートル	經四、六同	經四、六同
一對房付十五圓	同 三圓五十錢	同 三圓五十錢
同 九圓五十錢	同 二圓五十錢	同 二圓五十錢
同 六圓八十錢	同 二圓	同 二圓
同 四圓五十錢	同 同	同 同
同 三圓八十錢	同 同	同 同
同 三圓二十錢	同 同	同 同

尚御好みにより値も品も色々に調製致します。御話下されば早速見本持參御伺致します。
平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話 九五番

吉田眼科病院
平町屋町電話六八番

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

山崎合名會社
鹽屋
福島縣平町電話營業部二〇醸造工場
明治生命會社代理店 山崎與三郎

木村科醫院
平町五丁目橋際
電話九〇三番